

ワシントンで働く女性の会(J-WIP)第18回会議報告

9月26日、ワシントンDCで働く女性の会(Japanese Women in the Professions in Washington D.C. (J-WIP))は、芸術家の小野節子氏のご自宅にて、「私と芸術」のテーマで、小野氏とローレス陽子氏との対談を実施しました。

小野氏は、世界銀行をご退職後、現在は、芸術家として、絵画やスティールの彫刻を中心とした芸術活動をされています。小野氏の作品には、スペイン内乱、ワルシャワ反乱やパレスティナをテーマに描かれた、いわば「怒り」が反映された作品もあれば、動物や人間、自然をモチーフに取り入れた作品もあります。作品は、米国、日本を含み、各地で展示され、ホームページ(<https://www.setsuko-ono.com/>)からもご覧いただけます。

小野氏のファンとおっしゃるローレス氏との対談を通じて、小野氏のご家族のこと、世界銀行でのご勤務、また、芸術活動について、お話いただきました。女でもなんでもできると言い聞かせ、女の子だから、男の子だからと区別することなく平等に小野氏や小野氏のきょうだいを育てられ、また、常に「美しいもの」を意識されていたお母様のほか、「革命的な芸術家」と小野氏が尊敬されているお姉様の小野洋子(オノ・ヨーコ)氏、初期の作品をご覧になって芸術活動を本職にすべきと小野氏を応援されたヨーコ氏の夫ジョン・レノン氏にまつわるエピソードもお話いただきました。また、世界銀行では、優秀な技術者らと一緒に問題解決にあたることができ充実感を感じられることもあった一方で、貧困状況が改善しない現実や、当時、日本人がほとんどいなかった世界銀行で出世が阻まれるという葛藤についてもお話がありました。

小野氏の作品の中には、スティールを使い、動物や人間が踊る様子を表現した屋外作品「夢」という印象的な彫刻がいくつかあります。これは、ご自身がバレリーナになりたかったこともあり、人間が動物と一緒に飛び上がって踊る姿を描きたいと思われ、造られた作品だそうです。「夢」の一つは、東京の原美術館に展示されていますが、スティール部分に周りの木々など、四季折々の自然が反射し、キラキラとしてとても美しく、ご自身も気に入っておられる作品の一つだそうです。また、現在制作中で、ニューヨークの公園で展示予定の作品についても、ご紹介いただきました。

対談には、多数の男性や世銀グループ関係者も含め、J-WIPのメンバーや商工会会員・非会員合計約40名の方がご出席されました。



